

第 11 回紀の川市子ども・子育て会議  
議事概要

日 時	平成 30 年 10 月 23 日 (火) 午前 10:00～		
場 所	紀の川市役所 2 階 市民協働スペース		
出席者	(順不同敬称略) <b>【委員】</b> 金川委員 (会長)、橋本委員 (副会長)、青木委員、内山委員、矢野委員、 松本委員、米田委員、忠岡委員、木村委員、田津原委員、淡路委員、 山本委員、真砂委員、長岡委員、塚田委員、山野委員  <b>【事務局】</b> 若林、榎戸、嶋田、前田、富尾、坂本、楠井、西		
欠席者	1 名	傍聴者	1 名
議 題	(1) 紀の川市子育て支援策の状況について (2) 第 2 期 紀の川市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う市民ニーズ 調査について		
資 料	<b>【A】</b> 紀の川市子育て支援策の状況について <b>【B】</b> 事業計画策定スケジュール・調査概要 <b>【C】</b> 子ども・子育て支援に関する調査票 (就学前児童の保護者用) <b>【D】</b> 子ども・子育て支援に関する調査票 (小学生の保護者用)		

## 1. 開 会

## 2. あいさつ

金川会長 本年度中に、就学前児童と小学生それぞれの保護者に、子育て支援についてのニーズ調査を行う。その結果をくみ取った上で、来年度、計画を策定する。前回と状況が変化しているので、今回の調査票には子どもの貧困に関する設問を入れている。重要な調査となるので、積極的なご意見をいただきたい。

## 3. 新委員紹介

事 務 局 役職を退かれた方の後任委員として、淡路委員、山野委員、橋本委員、新規委員として林委員を紹介

## 4. 副会長紹介

事 務 局 前回は承認された橋本副会長を紹介

## 5. 議事

### <議題（1）紀の川市子育て支援施策の状況について、事務局より、【資料A】に基づき説明>

金川会長 資料を見ると、紀の川市は保育ニーズがかなり高くなっている。特に3号認定で実績値が見込値を大きく上回っている。保育士の確保が難しいことと、地域が広いので希望の保育所に入れているかといった課題もある。ただ、都市部にみられるような待機児童はいない。

青木委員 地域ごとのニーズの違いはあるのか。地域によっては、待機児童的な（近くの保育所に希望通り入れない）子どもがいるのか。

事務局 地域間格差が広がっている。特に打田地域では、低年齢児の受入が難しく、他地域の保育所に行っていたらというケースがある。第2期計画や保育所の第2次再編計画において、受入拡充を考えていきたい。

松本委員 ファミリー・サポート・センターでは、紀の川市は岩出市に比べ、0歳児・1歳児の預かりが多い。本当は保育所に預けたいけれど、預け先がないという理由で、短時間労働をされている保護者が多い。ファミリー・サポート・センターは費用かかるので、長時間の利用は難しい。企業主導型保育のような認可外の保育所について、新規開園などの情報を一元的に見られるようにしてほしい。

事務局 認可外保育所は企業型が中心で、特に看護師さんの子育てを支援するために、病院が開設している場合が多い。従業員ではなく誰でも利用できる認可外保育所としては、山の子共同保育園がある。市内の認可外保育所について、情報を発信していきたい。

金川会長 では、次の議題に。

### <議題（2）第2期 紀の川市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う市民ニーズ調査について、事務局より、【資料B】に基づき説明>

金川会長 調査票は経年比較が必要なので、基本的には変えない方がよい。【資料C】は特に、設問について国の指定があるので、変えづらい。その中で、和歌山県の子どもの生活実態調査に合わせて、子どもの貧困に関する設問をいくつか追加していただいている。その中に世帯収入を聞く設問があるが、相対的貧困率を出すために、世帯の

人数をたずねる設問も追加してほしい。他に気づいたことはないか。

長岡委員 【資料C】で、問13-1の回答欄に全部○が記入してあるが、これはどういう意図か。

事務局 実際は薄く印字し、上からなぞっていただく。

真砂委員 子育てや教育について相談する相手を問う設問で、選択肢にインターネットを追加してはどうか。また、自由記述欄の罫線は、ないほうが書きやすいのではないか。

金川会長 検討を願いたい。

真砂委員 【資料D】で放課後や休日の過ごし方について希望を聞いているが、合わせて現状も聞いてはどうか。

金川会長 スペースの都合もあるので、検討していただきたい。

松本委員 【資料C】【資料D】いずれにも、紀の川市の子育て環境や支援への満足度を5段階評価で聞く設問がある。これは、とてもよいと思う。前回のアンケートの回収率は40%強だが、全国的にもこの程度なのか。

金川会長 保育所や幼稚園などで直接配布・回収すれば、回収率が上がる。

事務局 直接配布も検討したが、兄弟などがいた場合、重複して配布される家庭が出てくる。調査票のボリュームもあるので、重複しないよう、この方式とした。

松本委員 これだけの分量のアンケートに、忙しい人が答えるのは難しいのではないか。そうになると、本当に保育を必要とする人の声が、埋もれてしまうのではないか。

金川会長 アンケート調査の限界は、いつも感じている。例えば、ファミリー・サポート・センターができると、ニーズが顕在化して高くなる。病児保育も、インフルエンザが流行ったりすると、ニーズが上がる。アンケートの限界を補填するためには、関連施設へのインタビューなどができればよい。そのような工夫をお願いしたい。

青木委員 【資料C】で行政に希望するサポートを聞く設問があるが、希望するサポートと何に困っているかは、一致するのか。子育てをしている人の悩み事から計画の枠組みを考えるとすると、聞き方も変わってくるのではないか。また、保育所の再編に関

係する設問があるが、市が再編を民間に任せるのか、公立で進めるのかによって、結果が変わってくるのではないか。公立保育所についての設問では、自分が通っている保育所についてなのか、公立保育所全般のことなのかによって、回答が変わってくるのではないか。

金川会長 紙面の関係もあるが、困りごとをたずねる設問もありかと思う。

事務局 第2次の保育所再編は、すべて民間にお願いすることは考えていない。

橋本副会長 再編については検討委員会で検討するが、今後、対象となるのは打田や貴志川といった、児童数が多い地域となる。民間だけではまかないきれない。公立も残し、公立でなければできないサービスも考えていかなければならないと考えている。

金川会長 通っている保育所について聞いているが、どの保育所のことなのか、このアンケートでは把握できない。それでよいのか。

事務局 居住地域でクロス集計をする。

金川委員 いちど事務局から調査票の見直し案を示していただき、委員長と副委員長の最終確認で承認ということをお願いしたい。後で気付いたことがあれば、今週中に事務局に連絡してほしい。では、委員の皆さまにひとことずついただきたい。

青木委員 次期計画を楽しみにしている。紀の川市らしさが発揮された計画にできればと考えている。

内山委員 これまでは幼稚園を運営してきたので、保育のノウハウはない。そんな中、認定こども園になるが、これがたいへんに難しい。ご指導いただきたい。

矢野委員 学童保育を長年やってきた。最近、障がいのある子どもを土・日曜日でもみてもらえる施設が出てきた。学童保育は日・祝日は休みだが、どのようなニーズがあるのかを細かく知りたい。

松本委員 近所で子どもが泣いているので、虐待ではないかと思って自治体に相談したら、納得できる対応にならなかったという事例がある。こうしたことが続くと、通報しなくなるのが、いちばん困る。虐待は早めにキャッチすることが大切だ。通報があったときには、突き放さず、しっかりとした対応をお願いしたい。

- 米田委員 保育所の再編があるということで、保育所自身もがんばっていきたい。少子化とはいえ、今年度は1歳児が非常に多いので、低年齢児の保育の必要性を痛感している。
- 忠岡委員 昔は、仕事のために保育を必要としている人が多かった。最近では、仕事をしていなくても、子育てにしんどさを抱えている親が増えている。こうした人を、市と協力して支援していきたい。保育士不足について話が出たが、現場の保育士は本当にたいへんなので、定員の見直しなどを考えていただければありがたい。
- 木村委員 保育所と幼稚園は全然違うし、子どもによっても求められるサービスが異なる。いろいろと教えていただきたい。
- 田津原委員 いろいろな意見が参考となった。
- 淡路委員 アンケートの回収率の低さが気になる。不安を抱えている保護者でも、アンケートの回答などに積極的でない人の方が多い。そういった人たちの声を聞く機会をつくっていただければよいと思う。
- 山本委員 私たちが小さい頃は、学童保育がなくても小学校に自由に入出入りして遊べた。子どもたちが安全に、安心して遊べるような公園などが、地域にあれば助かる。
- 真砂委員 子育てに必要な情報が一元化され、アクセスさえすれば知りたいことがわかるような情報発信を検討していただきたい。市のホームページから何ページもたどって必要な情報にたどり着くのが現状だ。
- 長岡委員 粉河地域の保育所一元化で、保育士は確保できるのか。ただでさえ保育士不足の中、新しい保育所の保育士数は現状の倍になるらしい。保育士の確保は保育所任せになるのか。また、集めることは可能なのか。
- 橋本副会長 保育所でも募集はしているが、市としても、現行の公立保育所の臨時職員の保育士さんで粉河保育園に移る希望がないか確認するなど、サポートを行う。
- 塚田委員 アンケート回収率の関係で、必要な人から答えが返ってこないことが何につけてもある。調査票をもっとコンパクトにできないものか。困りごとは行政に頼るよりインターネットで探す人が多いので、そのような方法も考えていただきたい。
- 山野委員 アンケート調査で最新のニーズがわかり、福祉行政だけでなく教育行政にも生かせるので、たいへんありがたい。効果的な教育行政につなげていきたい。

橋本副会長 アンケートの回収率が大きな課題になっているが、投票に行くのも高齢者ばかりで、若い人の声が行政に届かない。シルバーデモクラシーなどとも言われる。若い方々には回答する時間がないかもしれないが、もっと興味を持っていただけるような切り口もあるのではないかと。若い人にも興味を持ってもらえるような行政を考えていくので、お知恵をいただきたい。

金川会長 その他、ご質問等はあるか。ないようなので、事務局から何かあればどうぞ。

## 5. その他

事務局 次回の会議は2月を予定しているが、会議後に時間があるようなら、市の学童施設等の見学を実施したい。いかがか。

金川会長 たいへん興味がある。

事務局 実施を検討する。

橋本副会長 少子化が進む中、第2期計画の策定に当たっては、検討していただく点が非常に多くなってくると思う。多岐にわたる視点で、ご意見をうかがいたい。本日は、ありがとうございました。

## 6. 閉 会